

「段取り八分」を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き頂きありがとうございます。11月20・21日に、中国のシンセンに行かせて頂きました。中国政府が今一番力を入れている会議にボアオフォーラムというものがあります。ボアオという海南島で行っている国際会議の一部がシンセンでありましたので、そこで3日間過ごしてきました。中国の企業の経営者を集めて、これからの中国をどうするのか、企業経営をどうするのかを話し合う会議に招かれたので、行かせていただいたのです。

日本人の参加は、野村證券の方と日本郵船の方と私の3名でした。全員で200名位の小さな会議でしたが、3日間熱心な話し合いが持たれました。1番のテーマは、これから中国の人口が都市部に移ってくる、10年から20年かけて2億人ぐらいは都市に移りそうだ、その時にどのようにして水道、ガス、エネルギーなどの基盤整備をするか、また、教育のしくみをどうするかという基礎的なものでした。中国の方々が自分達の生活を向上させるためにいろいろと努力なさっていることを目の当たりにして、私達も日本も頑張らなければと感じました。ただ、何をやるにも一番大事なのは英語の力とコンピュータの力で、この2つの力がなければこれからは何の仕事もできないことが多いということがわかりました。非常にその自覚を深めました。

今日から12月です。お正月まであと1か月です。そこで、来年の準備は12月中に考えてもらいたいということで、「段取り八分」の話をして頂きます。「段取り八分」という言葉は、小学校の時から親友で大工をしている渡辺茂(わたなべしげる)さんに教えていただきました。渡辺茂さんは、足利市の島田町に住んでいまして、私の家や開倫塾のいくつかの校舎も作ってもらい大変親しくしている方です。

日本の建築様式で家を建てる時、大工さんは、その準備作業、つまり段取りのために自分の持っているエネルギーの10のうち8を使う、特に、建てまえや棟上げの時は8割どころか9割9分のエネルギーを使う。あまりに熱心になるために前の日はよく眠れないくらい段取り・準備を行うというお話でした。エネルギーの大半を使ってまで準備作業をすればよい仕事ができる、これが私の理解した「段取り八分」の意味です。これは勉強にも大いに利用可能です。

あと1か月で新年を迎えますが、皆さんは2006年をどのように過ごそうとお考えですか。充実し

た1年にしたいと考えるのであれば、新年を迎えるまでにその準備・段取りを着々と進めるべきです。これは、大人の方、社会人、学生も同様です。来年はどのように仕事をしようか、どのような生活を送ろうかということは、1月1日になってから考えたのでは遅いのです。1か月前から「段取り八分」の心持ちで、新しい年を迎えるにあたっての準備を十分にすれば、自分の思うような形で新年を迎えることができます。何も考えず準備をしなければ、また今年のように時間に流され、時の流れに身をゆだねてしまって、あっという間に1年が過ぎてしまいます。そして、年の終わりには自分はこの1年何をしていたのだろうという思いになってしまいます。

では、何をしたらよいのかといいますが、小さなことでもよいですから、来年の目標を1つないし2つ決めることです。できれば、目標は明確かつ具体的であるのがよいのです。これがあるかないかで、1年間の充実度は天と地ほど違ってきます。ものごとはすべてといってよいほど、「こうありたい」「こうしたい」と思って努力を重ねない限り実現しないと思います。努力をしないのにたまたま実現することもあります。しかし、それでは本人はそのことが有難いことだとはなかなか思いません。ですから、それを大切に思うこともありません。そのため、せっかく実現しても砂上の楼閣、砂の上につくられたお城のようにあっという間に崩れ去ってしまいます。そこで私かお願いしたいのは、どんなに小さなことでもよいですから新年を迎えるにあたっての具体的な目標を決め、それを達成するための準備を12月から着々と進めることです。目標を決めることで、本人に自覚が生まれます。学習面で高い効果を得るには、本人の自覚と先生の力量、この2つが大事です。教え手の力量を高めてもらうことも大切ですが、それ以上に本人の自覚が大切です。そのためには明確な目標を決めることです。

では、どのようにしたらよいのでしょうか。まずは、机の上や周辺を片づけることです。目標を実現するために行うことを1分以上かけて決め、1分以上かけてそれをする。それは、今までやってきた中から何かをやめることを意味します。何かをするためには何かをやめなければいけないのです。そこで、何をやめるのかということも考える必要があります。「捨てなければ得られない」こともありますので、何を捨てるかも合わせて考えたほうがよいと思います。この「捨てなければ得られない」という言葉は、京都の一燈園の石川洋(よう)先生から教えて頂きました。皆様も、何を捨てたらよいか、何をすべきかを真剣に考えて、この1か月を過ごして頂きたいと思います。今日は、「段取り八分」についてお話させて頂きました。